

8. 大学入学共通テストについて

平成33年より、「大学入試センター試験」にかわり、思考力・判断力・表現力を中心に問う「大学入学共通テスト」が導入されます。以下は現時点でわかっている情報です。

大学入試の共通テストはこう変わる (2017年7月時点の文部科学省の発表や取材による)

| 名称 | 大学入試センター試験 | 大学入学共通テスト |
|------------|--------------------------|--|
| 実施年度 | 19年度(20年1月)まで | 20年度(21年1月)から |
| 日数 | 1月中旬の2日間 | 1月中旬の2日間 |
| 出題科目 | 30科目 | 現在と同じ30科目(24年度から簡素化) ※英語は下記の通り変更 |
| 出題方式 | マークシート方式 | マークシート方式に加え、「国語」(国語総合の範囲。古文・漢文を除く)と「数学Ⅰ」および「数学Ⅰ・数学A」(数学Ⅰの範囲)で3問ずつ程度記述式問題を出題。国語は20分程度、数学は10分程度、試験時間を延ばす。(24年度からは理科、地歴・公民でも記述式出題を検討) |
| 英語 | マークシート方式の筆記試験とリスニング試験を実施 | 「書く」「読む」を含む4技能を評価できる民間の資格・検定試験を国が認定し、3年生の4～12月の2度までの試験結果を各大学に提供する。(23年度までは共通テストも実施し、認定試験と併用する) |
| 採点 | 大学入試センターが採点 | 大学入試センターが採点するが、記述式は民間企業を活用。 |
| 結果の各大学への提供 | 受験生が出願した大学に、科目別の得点などを提供 | 受験生が出願した大学に、科目別の得点以外に設問・分野ごとの成績など、現在より詳しい情報を提供する。記述式の採点結果は段階別表示を検討。 |

以下は「大学入学共通テスト」導入についての文部科学省の解説です。

1. 高大接続改革とは？

グローバル化の進展や人工知能技術をはじめとする技術革新などに伴い、社会構造も急速に、かつ大きく変革しており、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要です。このためには、『学力の3要素』(1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)を育成・評価することが重要であり、「高等学校教育」と、「大学教育」、そして両者を接続する「大学入学者選抜」を一体的に改革し、それぞれの在り方を転換していく必要があります。

2. なぜ記述式問題を導入するの？

記述式問題の導入により、解答を選択肢の中から選ぶだけでなく、自らの力で考えをまとめたり、相手が理解できるよう根拠に基づいて論述したりする思考力・判断力・表現力を評価することができます。

また、共通テストに記述式問題を導入することにより、高等学校に対し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を促していく大きなメッセージとなります。大学においても、思考力・判断力・表現力を前提とした質の高い教育が期待されます。併せて、各大学の個別選抜において、それぞれの大学の特色に応じた記述式問題を課すことにより、一層高い効果が期待されます。

3. なぜ英語 4 技能評価に資格・検定試験を活用するの？

グローバル化が急速に進展する中、英語によるコミュニケーション能力の向上が課題となっています。

現行の高等学校学習指導要領では、「聞く」「読む」「話す」「書く」の 4 技能をバランスよく育成することとされており、次期学習指導要領においても、こうした 4 技能を総合的に扱う科目や英語による発信能力が高まる科目の設定などの取組が求められています。

大学入学者選抜においても、英語 4 技能を適切に評価する必要があり、共通テストの枠組みにおいて、現に民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験を活用し英語 4 技能評価を推進することが有効と考えられます。

4. アクティブラーニング、ポートフォリオについて

<アクティブラーニングについて>

アクティブラーニングとは、学習者である生徒が受動的となってしまう授業を行うのではなく、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法です。アクティブラーニング型授業では、講義を一方向的に聞くのではなく、ペアワークやグループワークも取り入れ、学んだ知識についての理解や自分なりの意見を発表し、相手の理解や考え方も聞いて理解を深めます。

このアクティブラーニングを行う時には、次の点を意識して取り組んでください。

教員側…[授業目標] ディスカッションの中で生徒のインプットとアウトプットを積極的に刺激できるようにする

(グランドルール)

- ① 明るい雰囲気です。
- ② 否定しない。
- ③ 個人的な情報はディスカッションの外へは持ち出さない。
- ④ 必要に応じて生徒のディスカッションに入り発問しながら生徒の意識を高めていく。

生徒側…[授業目標] 主体的・協働的・対話的な深い学びができるようになる

(グランドルール)

- ① 明るい雰囲気です。
- ② 友達の意見を最後までしっかり聴いて理解する。途中で遮らない。
- ③ 問題の状況を把握し、解決手法を確認する。
- ④ 自分の意見を筋道立てて説明する。
- ⑤ 多くの友達が発言できるようにお互いに意識する。
- ⑥ 全員が納得するまで十分に話し合う。
- ⑦ 多数決や一部の強硬な意見で結論を出さない。
- ⑧ 腕組みをしない。
- ⑨ 否定しない。
- ⑩ 10秒間待ってから発言する(グループにリーダーがいる場合)。
- ⑪ 発表終了時は拍手と笑顔で相手を褒める。
- ⑫ 発言する人はトーキングオブジェクト(意見が活発にでないときなどに利用)を持っている人だけで、他の人は聞く側にまわる。
- ⑬ 個人的な情報はディスカッションの外へは持ち出さない。

※トーキングオブジェクトとは、発言する人を示す印のこと

<ポートフォリオについて>

これからの大学入試では、学力だけが評価されるだけでなく、人物の多面的な評価が求められています。その多面的な評価を受ける為には、高校生活での「学びの活動」をエビデンス(根拠)にして大学側に示す必要があります。

本校では、学びの結果を蓄えるe-ポートフォリオ(まなBOX)を導入しています。みなさんは、高校での学びに「主体的」に取り組み、その活動を蓄積して、大学入試の準備をしてください。